

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---


氏 名 AZEEM DAD GADI


論 文 題 目

Medical student's willingness to work in post-conflict areas: A qualitative study in Sri Lanka



(医学生の紛争後地域で働こうとする意欲について：  
スリランカにおける質的研究)

論文審査担当者

主査員 名古屋大学教授 植村 和正 

委員 名古屋大学教授 石井 晃 

委員 名古屋大学教授 濱嶋 信之 

指導教授 名古屋大学教授 青山 渥子  

## 論文審査の結果の要旨

本研究の目的は、スリランカの医学部学生が、長期紛争後に深刻な医師不足が生じている北東部で働くことに対し、どのような意識を持っているかを調査し、その意識に寄与する要因を明らかにすることである。首都近郊と北東部に位置する2大学医学部にて、半構造化自記式質問票を用いて、学生の意識を調査した。自由記載された内容をテキストデータとして入力し、フレームワーク・アプローチによって質的解析を行った。

解析の結果、以下の3テーマが確認された。(1) 医療専門職としての動機付けおよびキャリア・プラン。(2) 北東部の保健医療状況についての認識。(3) 将来の職場として北東部の選択。学生が北東部の困難な状況を認識していることは、北東部で働こうとする動機付けとなることが分かった。北東部出身学生は、地域をよく知っており、帰属意識を持っていた。また、北東部以外の出身の学生は、個人的経験によって北東部の困難な状況への理解を深めており、それが北東部で働こうとする意欲に影響していた。北東部で働く意欲を妨げる要因としては、職場や生活環境が劣悪であること、卒後教育の機会が少なくなること、使用言語が異なること、治安状況や地域住民の異民族に対する敵意が不安であることがあげられた。

北東部出身学生については、職場・生活環境を改善し、卒後教育の機会を確保することが必要とされる。北東部以外の出身の学生については、医学教育プログラムの中で北東部の状況を経験させることが有効ではないかと考えられる。また、北東部以外の出身の医師が北東部で働くことは、民族間の和解や信頼の再建を促進するという効果も期待される。本研究は、医師の偏在という保健医療システム上の重要課題について、スリランカの医学部学生が、将来医師不足地域で働こうとする意欲に影響する要因を質的解析することにより、新たな知見を加えた。また、世界各地に多発する地域紛争後の保健医療従事者不足に対処することが、平和構築の観点からも重要であることを示した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。